

○議長（石橋英和君） ご了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

順番15、8番 中西君。

〔8番（中西峰雄君）登壇〕

○8番（中西峰雄君） 一般質問も終盤に差しかかってまいりまして、最後から3番目でございますけれども、始めさせていただきたいと思っております。

私の最初の質問でございますけれども、中期財政計画と橋本駅前整備ということで、二つの問題を一つにまとめてあるという形になっています。

この中期財政計画の見直し案が6月に提示されまして、これは大変重要な資料だなというふうに、そのとき思いました。夏のときに事前に、これについて質問しますからねということであつちとお伝えしておいたんですけども、まず最初に、財政状況の確認ということでさせていただきたいと思っております。

平成24年度の経常収支比率、これは経常的な収入で経常的な支出を賄っているかどうかという指数、私は財政指標の中では最も重要視すべき指数ではないかなというふうに考えておりますけれども、これが103.6%。中期財政計画ではそうなってますが、実際は、縮めてみたらもう少し低いようでございますけれども、また、23年度決算の経常収支比率でございますけれども、この中期財政計画の資料によりますと、類似団体の中で、103市ある中でワースト6位という位置になっております。将来負担比率も類似団体の中でワースト7位という数字になっておりまして、合併以後、改善をしているということではなくて、逆に悪化しているというふうに言えると思っております。

この根本的な原因を、どのようにとらまえておられるのかということをお尋ねいたしたいと思っております。

くしくも、ちょうど10年前の9月議会に、私は前市長の財政成績表についてという一般質問をさせていただいております。このときの数値も似たり寄つたりの数値なんですね。ただ、今のほうが経常収支比率等は悪いんですけども、あまり良くないと。この当時、質問で5段階評価、要するに通信簿ですね。昔、1、2、3、4、5というのが子どもの成績表だったわけですけども、その成績表でいいますと、だいたいどの数値も1と2なんですね。この10年前の数値が。今も悪化しているんですけども、その当時とほとんど、全然良くなっていないと。合併をして、もうあと3年ほどすると10年ほどたつんですけども、今は苦しい時期であるというのわかりますが、この中期財政計画を見させていただいても、合併をして財政が良化していくというめど、見通しがなかなか見えにくいような中期財政計画になっているんじゃないかなというふうに思います。

これは、この根本的な原因というのは、一体どこにあるのかというふうにお考えなのかということをお尋ねいたします。

2番目ですけども、この中期財政計画の改定の中では、25年から31年の7年間で、約28億円の財源不足を生じるというふうに予測されております。大変厳しい数字なんですけれども、それを補いますために、人口減の抑制、市税の徴収率の向上、物件費の抑制、人件費の抑制、その他の財源確保策に取り組むとされております。それらは、現実的に具体的な

裏付けのある計画なのでしょうか。この中期財政計画の見直しは来年度から始まります。ということは、少なくとも、遅くとも、本年度中では遅いですね。12月中ぐらいまでには、この具体的な対応策というものができていなければならないんじゃないかなというふうに思います。

3番目に行きます。3番目の中で、発言通告書の中でちょっと訂正をお願いいたします。1行目の一番後ろから2番目ですが、2行目にかけてですが、キャッシュでは6億円となっているのを、これは私の事前の聞き取りの間違いでして、4億円というふうに訂正をお願いいたします。

で、読みますと、平成29年度から建設事業を中心とする投資的経費は、毎年度12億円、要するに特定財源、そして起債を除きまして、キャッシュでいきますと4億円しか使えないという、大幅に絞り込まざるを得ない財政計画となっております。

その中で、橋本駅前の休止区域の整備に要する事業費は約40億円。投入できる事業費は毎年キャッシュで約1億5,000万円というふうにお聞きしております。この休止区域の再開といいますか、開始ができるのが、だいたい29年ぐらいではないかなというふうに聞いておるわけですが、そうなりますと、順調にいきまして約30年の歳月がかかることとなります。30年といいますと、先ほどの平均寿命の話ではありませんが、私はもう死んで、おりません。そういう超長期にわたる事業計画というものが、リアリティーのあるものであるとは私には思えないんですね。そのあたりがリアリティーのあるものとして取り組んでいかれるのかなと疑問に思いますし、また、この30年という長期にわたる事業が、地域住民や市民にとって本当に幸福につながるのかということについても、大きな疑問を抱

かざるを得ないと思います。

4番目、これも長期の関係ですけども、長期になりますと、当然、手術が長くなると患者は死ぬんです。死んでしまいます。多分30年となりますと、今あそこにお住まいの方で存命の方というのは、いらっしゃるかいらっしゃらないかぐらいのことかなというふうに思いますし、また、権利者の変更、そして、もう既に家屋も相当老朽化しておるわけですが、さらなる老朽化で生活の不自由度が高まっていくというような事情の変更は、当然予想されます。そういったことが、さらなる事業の長期化と困難性をもたらしていくであろうということも容易に想像のできるころであります。

また、この投資的事業におきまして、投資的効果の発現というものも大変遅れてしまうということになります。昔は十年一昔と言いました。昔の言葉で言いますと、一昔、30年でしたら三昔になりますが、今ドッグイヤーと言われている、この変化の速い時代に30年というのは、どういう事情の変化があるかも予測もできません。そういうような事業ですね。このあたりをどのようにお考えなのか。

私は、この駅前といいますか、中心市街地の都市計画における位置付けとか、まちにおける機能、役割というもののとらまえ方、これが国自体もう間違えている。基本的に間違えている。地方も間違えている。人の意識も間違えているということは、以前の一般質問でさせていただきました。これは私の個人的な見解でございます。決して、多数意見ではないとは思いますが、個人的な見解です。

しかし、やらなければならないということであるならば、やはりこの対象区域の方々に対して、お住まいの方々に対して、この事業について誠実に説明責任を果たされるべきであろうというふうに思いますし、あるいは、

先日来の一般質問をお聞きしておりました、財政が厳しいからできないことが大変多い。先ほど言いましたように、投資的事業の中で使えるキャッシュが約4億円しかなくなっていくという中で、ここにキャッシュを1億5,000万円突っ込んでいくということは、ほぼ多くの住民の方々の要望を諦めてくださいよと。つまり、限られた財源の中で、副市長いいこと言っていましたよね。スクラップ・アンド・ビルドを考えていかないと財政はもちませんよと。これをやるということは、ほかの可能性を捨てていくと。諦めてくださいということになります。

ですから、地域住民の方だけではなくて、市としては、この事業を最優先でやっていくんだと。だから、住民の皆さんの要望もよくわかるけれども、辛抱してくださいよという、市民に対しての十分な説明責任を果たされるべきではないかというふうに考えます。

6番は、整備計画はできるだけ早くされるべきではないかなというところで、いつされるかということですが。

7番は、ちょっとこれは、私がこの地区に住んでいる方から直接言われたんですけども、第二地区という、事業認可のおりてない地区があるんですけども、ここの方々も、自分とこどうなるのかなと思っておられる方が、まだやっぱりかなりいらっしゃるようです。高齢の方が多いということもあるし、市のほうも積極的に説明をされてこなかったのです。

第一地区がこれからまだ30年、順調にいて30年かかる。下手すれば40年、50年かかるということになってきますと、第二地区については、もうほぼ着手の見込みがないと言っていいと思うんです。そのことを、この第二地区の住民の方にきちっと説明をされるべきであろうというふうに思いますし、そして、

地区がかなり路地も多いし老朽化家屋も多いので、その対応と申しますか、対策と申しますか、もう別途やはり考えていく必要があるんだらうなというふうに思いますが、いかがされるのでしょうか。

以上が一つ目の質問でございます。

2番目の質問に移らせていただきます。

文化遺産と観光資源価値についてということとして、先日来、富士山と三保の松原が世界遺産になりました随分とにぎわっておりますけれども、今、結構その世界遺産なり、文化遺産なりを観光資源として活用しようという動きが全国的にあるのかなど。本市もあるのかなというふうに思います。

ところが、私は、文化というものにもいろんなものがあるだろうと。特定の人、集団、人種、地域、時代に価値を有する文化。この私どもの身近で申しますと、地域で守り伝えていかなければならない文化というものもあります。しかし、それは決して世間一般、世界に通じるものではないというものもあるんですよ。あるいは、ちょっと比喩で申しますけども、個人的に大変大事に思っている、されている品があると思います。遺品であったり、あるいは記念の品であったり。それは、その個人にとっては大変価値の高いものがございますけども、他人にとってはほとんど価値がないというようなものもございますね。文化にも同じようなものがあるんじゃないかなど、私は思います。

そんな中で、本市として、どのような文化をこれからの橋本市の文化的発展に資する文化財、文化遺産として、守り伝えていこうとされているのかということをお尋ねしたいと思います。

もう一つ、2番目も重なってきますけども、文化財、文化遺産というものが、すべて観光資源価値が高いというものではないと、先ほ

どのお話でもおわかりのとおりだと私は考えております。

ところが、私は、文化財は文化財、文化遺産は文化遺産として私どもは守り伝えていくべきであろうというふうに思いますが、世間の風潮としましては、これを観光経済に活用しようという考えがかなり広まってきている中で、この観光資源価値を持つ文化財、遺産というのはどういうものをお考えなのかということをお尋ねいたしたいと思います。

以上、壇上からの質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君） 8番 中西君の質問項目1、中期財政計画と橋本駅前整備に関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（北山茂樹君）登壇〕

○総務部長（北山茂樹君） 中西議員のご質問にお答えします。

1点目の、経常収支比率や将来負担比率が合併後悪化しているとのおただしについてですが、まず、経常収支比率103.6%は決算見込みの段階でしたので、確定値は98.4%となっています。

議員ご指摘の、合併後の経常収支比率悪化の要因は、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計への繰出金の増加及び社会福祉費、老人福祉費に係る扶助費の増加、公債費の増加などが主な原因です。

また、将来負担比率については、平成22年度決算数値は150.8%でしたが、平成23年度決算数値は164.4%と悪化しています。これは、地方債残高の増加、基金残高の減少などによるものです。

しかしながら、平成24年度決算数値は156.6%で、起債の交付税算入額の増加や基金残高が増加したことなどにより、改善してい

ます。

これらの比率の高い要因は、保健福祉センターや学校建設、耐震工事など、市民にとって必要不可欠な大型公共事業を実施したことによるものであり、今後は中期財政計画に基づき、歳入では税収の確保、歳出では人件費、物件費や投資的経費の削減などを着実に実行していくことにより、徐々に改善していくものと考えています。

2点目の、中期財政計画での約28億円の財源不足を補うため、5項目の財源確保に取り組む具体的な計画ですが、この財源不足額約28億円は、平成26年度から平成31年度までの累積財源不足額であり、毎年度、歳入の確保と歳出削減に取り組むことにより、財政運営の健全化を図るものです。

人口減少の抑制については、毎年500人程度減少している本市の人口を、子育て支援や定住促進、企業誘致などで人口減少を半分程度に抑えることを目標とし、年間700万円程度の市税の減収にとどめ、市税の収納率向上では、個人市民税は1%の増、固定資産税は2%の増と目標を高く設定することにより、一層の歳入増に取り組み、年間1億円程度の増収を見込んでいます。

人件費の抑制では、定員適正化計画に基づく退職者の8割採用による歳出削減、その他の歳出削減では、投資的経費の削減や事業のスクラップ・アンド・ビルドを徹底し、職員の一層の意識改革を図りながら財源確保に努めてまいります。

○議長（石橋英和君） 建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君） ③休止区域について、30年以上の歳月がかかる計画が本当にリアリティーのあるもの、地域住民や市民の幸福につながるものとするか、とのおただしについてお答えします。

中心市街地第一地区土地区画整理事業における休止区域の年間整備事業費については、現在の財政計画において、充当可能な一般財源は1.5億円程度と考えており、休止区域全体の整備事業費が概算約44億円であることから、事業期間は30年程度の長期になると想定されます。

そのため、休止区域ではこれまでの先行区域での実施方法を見直し、仮住居、仮店舗、仮倉庫といった住居や店舗等の仮移転をできるだけ少なくし、できる限り短期での移転完了をめざすなど施工方法の検討を行い、関係住民の方々に極力ご負担をかけないよう進めたいと考えています。

さきの議会でも答弁させていただきましたが、当該事業は「活力あるまちの再生」「都市防災機能の向上」「安全で快適な住居環境の回復」を実現し、さらには、「北部開発地とのバランスのとれたまちづくり」「地域活性化への貢献」という目的を達成するために、継続しなければならない事業であると考えています。

次に、④長期の計画は居住者・権利者の変更、家屋の老朽化等、さまざまな事情の変更が予想され、それらは必然的に事業のさらなる長期化と困難性をもたらすのではないかとのおたただしですが、計画が長期化すれば、さまざまな事情や状況等が変化する可能性が考えられますが、そのことが必ずさらなる長期化に結び付くということではないと考えます。

しかしながら、事業期間を少しでも短縮するための検討は継続的に行うとともに、長期化に起因する関係住民の方々の各種負担の軽減、住居環境の保全に関する対策、規制の緩和などについての検討も行っていきたいと考えています。

⑤30年以上の長期にわたるおそれがあることを早期に住民に説明すべきではないか、⑥

整備計画もできるだけ早く示すべきではないか、とのおただしについてお答えします。

休止区域の整備計画並びに事業期間等につきましては、できるだけ早い時期での関係住民の方々への説明が必要であると考えています。整備の詳細計画策定には今しばらく期間を要しますが、まずは計画の概要と長期化が予想される事業期間等についての説明を行うとともに、住民の方々の意向をお聞きすることで、今後の計画策定に反映すべきと考えており、本年末までの住民説明会開催を予定し、現在準備を進めています。

⑦第二地区の住民に、計画実施の目途がないことを改めて明確に説明すべきではないか、とのおただしにつきましては、第一地区については引き続き先行区域の整備を鋭意進め、その後、休止区域の整備に着手するよう考えていますが、さきの答弁のとおり、事業期間が長期化すると考えています。複数地区を同時に事業化することは困難ですので、第二地区の方向性については、第一地区の進捗状況や本市の財政状況を見ながらの検討としたいと考えています。

○議長（石橋英和君）8番 中西君、再質問ありますか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）まず最初の財政関係からただしていきたいと思います。

私は、合併後の数値も悪いんですけど、もっと根本的なところを、どないとらまえてるんかということを知ったかっただけなんです。というのは、先ほども申し上げましたように、私の調べたところでは、平成15年に、今から10年前に一般質問するにあたって調べさせていただいたところによりますと、だいたい平成5年ぐらいまでは、財政の数値はそんなに悪くないですよ。ところが、5年からどんどん悪化していきまして、10年を越えてくる

と、本当に悪いと言っていい数字になってい  
ってるんです。前市長の財政成績表も先ほど  
申しあげましたように、だいたい昔の通信簿  
でいいますと1か2ということで、中位の3  
というところの財政指標はないんですね。通  
信簿でいうと1と2なんです。今回も似たと  
ころなんです。

今は便利になりまして、10年前にはわざわざ  
堺の図書館まで行って調べたんですが、今、  
ネットで結構そういうのが出てましてね。昨  
日、ちよろちよろっと見てました。そうしま  
すと、念のため、確認のためにお話させてい  
ただきますけども、今まで直近で、資料の23  
年度なんですけども、どこの自治体も財政が  
良くないというふうに思われている方が、結  
構多いですね。市民の中でもね。あるいは職  
員の中でも多いかもしれません。でも、それ  
は悪いんですけども、比較というのはあるん  
ですね、やっぱり。他自治体との比較でどう  
かと。どこも自治体は苦しくなっているけれ  
ども、よその自治体と比べてどうなのかとい  
うことで、数値を、順位を言わせていただき  
ます。

経常収支比率でいいますと、全国市787あり  
ます。その中でワースト80です。10段階評価  
でいいますと1ですね。Ⅱの1という類似団  
体でいいますと195団体あります。その中でワ  
ースト20位。これも約1割、ワースト1割の  
中にほぼ入っているということなんです。ね。  
将来負担比率については言うまでもありませ  
ん。これも10段階評価でいいますと11とい  
うんですか、ワースト10の一番ワースト1の  
部類に入ってますね。そして、この将来負担  
比率の見通しでございまして、徐々に減  
っていくということなんですけども、31年の77.9  
という数値を23年度に当てはめてみますと、  
ほぼ全国市の中の中位と。真ん中ぐらいとい  
う数字なんです。だから、通信簿でいうと

3ですね。4までいかないという状態なん  
です。

これは、今まで合併でいろいろ、特に将来  
負担比率については、23年の6月の行政改革  
推進計画の中でも理由を書いていたしてい  
ますからわかるんです。この中で、私ちょっ  
と一点だけお聞きしたいことがございます。  
23年6月の行政改革推進計画の中で、この中  
で経常収支比率についての記述がございま  
す。これ、平成21年度決算、一時、合併してしば  
らく悪かったけれども、21年度決算におい  
ては93.9%まで良化しているという記述がござ  
います。確かにそうなんです。で、23年の6  
月といいますと、今から約2年前に策定され  
た、これの予測によりますと、予測といいま  
すか計画ですね。計画によりますと、平成25  
年度まで、若干ながらも良化していくと。  
良化して92%強という計画を立てられてお  
るんです。この差異というのはなぜ生まれ  
てきたのか。これは一つ明確にお答えいた  
だきたい。

もう一つ、先ほど来言っているように、か  
なり、もう10年以上前から、うちの市の財  
政はあまり成績芳しくないんです。残念な  
がら。これはなぜなのかと。どうしてなん  
だろうと。私を私も不思議に思いますし、  
市の方々もそのあたりをどうお考えなの  
かということ、明確にちょっとお答えいた  
だけますか。

○議長（石橋英和君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）ただ今おた  
だしの、橋本市は全国的に経常収支比率、  
将来負担比率が高いと思われる。その理  
由については、橋本市は市民病院を持  
っているために、病院への普通交付税措  
置に一般財源を上乗せして繰り出しを  
していることと、それから、公共下水  
道事業への繰出金が多額にのぼっているこ

とが原因であると考えられます。

将来負担比率につきましては、標準財政規模に対する起債残高が多いこと、また、基金残高が減少傾向にあることが原因と考えております。

病院や下水道会計への繰り出しにつきましては当分続くため、経常収支比率の改善はすぐには見込めませんが、今後、普通建設事業の削減により、公債費の削減と基金残高の確保や経常的経費の削減に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）それから、橋本市が従来から財政状況が悪いということの一つの要因ということでございますけども、橋本市のような7万人規模、合併前でしたら5万人を超える規模の中で、やはり市民病院を一つ持っているというのが、そもそも数少ない自治体だと思います。さらに、公共下水道事業を実施していると。さらに、土地区画整理事業もやっていると。今の新市になりまして、人口7万人前後の規模ですけども、その7万人規模の自治体の中で、病院を抱えている、それから公共下水道事業を実施している、土地区画整理事業を実施しているというような大きなプロジェクトを実施しているということ自体が、非常に厳しい財政状況を生み出しているのではないかと、かように思っております。

（「もう一点答弁もれ」と呼ぶ者あり）

○議長（石橋英和君）ご指摘ください。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）中期財政計画の前の、行政改革推進計画の経常収支比率の、市当局でつくられた推移の計画がございますね。これと現在と大きくそごしているわけです。このそごの原因は何なんだろうということですね。何でしたらお貸ししましょうか。

○議長（石橋英和君）財政課長。

○財政課長（吉本孝久君）過去に大型プロジェクト事業ということで、広域ごみ処理施設の建設、それから下水道事業、それから病院の建設、それから土地区画整理事業の、その起債の償還につきましては、経常収支比率に影響いたします。その起債の残高が増加している中で、さらに学校の耐震化、それから保健福祉センターにつきましては、23、24年度の事業なので起債の償還には反映いたしませんけども、やはり起債の償還につきましては経常収支比率に影響いたします。その関係が原因と考えられます。

○議長（石橋英和君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）23年の6月に、これ、いただいているんですよ。そのときに、この今の、今25年でしょう。つくられたのは2年前の話でしょう。それは、読み込まれてなかったファクター、因子がありましたということですか。ありましたならわかるんですけど。という解釈でよろしいんですか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）例えば、その時点で考えられてなかったのが、土地開発公社の解散、それにつきましては起債等々カウントはしておりません。それが一応大きな、13億4,000万円の第三セクター改革推進債を借っているということによりまして、それは翌年度から元金、利子、償還が始まりますので、それが非常に公債費を上げておると一つの原因にもなっております。それらがもともと考えられてなかったものでございます。

○議長（石橋英和君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）それはそれとして、わかったということにしておきたいと思います。

私も、お答えいただいたように、本市が市民病院を持ってきたということは大変財政に大きな影響を与えてきたというふうに思いま

すし、ただ、下水については、始めるのが遅かったというのはあるんですけども、どこのまちもだいたいやっているところが多いので、それはちょっとどうかと思います。

ただ、言えるのは、もうお答えいただいたとおり、うちの市はもう目いっぱい財政出動をしているというか、アクセルいっぱいふかしているという状態をずっと続けておる。これが良化する見込みが、この中期財政計画を見るとないんですよ。合併をして、財政の算定替えが終わった時点で、やはり財政が良化してこないと、将来の本市の行財政運営展開のポテンシャルがないということになっていくんです。

私は、財政は財政のためにあるのではなくて、市民のためにあるので、それが本当に市民のために使われていけばいいんですけどね。今の、この本市の財政運営を続けていきますと、本市の、この橋本市の将来の可能性、あるいはポテンシャルというものを小さくしていくような方向に、今、行財政が行われているんじゃないかというふうに考えますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○議長（石橋英和君）総務部長。

○総務部長（北山茂樹君）先ほど私もちょっとお話させていただいたんですけども、もちろん病院を抱えながら、そこに下水道もやっている。下水道については議員おただしのおとり、どこの自治体もかなりやられているということもあるんですけども、同時に、病院を抱えながら公共下水道も実施し、さらに土地区画整理事業もやっておると。三つの要件がたび重なっているというのは、7万人規模の自治体では数少ない自治体だと思います。その意味からいまして、市といたしましても、議員おただしのおとり、目いっぱいほんまにアクセルを踏んでいるという状況が続いているということになろうかと思います。

さらに、合併いたしまして、いろいろ旧市・旧町の均衡を図るために、いろんな事業を実施しているということも、その一つの要因にも今はなってきております。それも徐々には、ほとんど大きな大型公共事業につきましては、ほぼ完了いたしましたし、あと残りは幼保一元化等々あるんですけど、それはもうスクラップ・アンド・ビルドの考え方によるものですので、大きな今後の負担にはなっていないように私は思っております。

さらに人件費ですけども、人件費も、市長が合併前の17年から100人を減らすということを明言いたしまして、それは着実に実行いたしました。今も毎年約30名から40名、今年でしたら40名が退職する予定でございますので、40名をフルに採用するということはしてございませぬので、当然、人件費自体は確実に、着実に減少するというようになってきます。

それから、IT関係でいいますと、自治体クラウドを進めてございますので、その辺の保守等々も、かなり今コスト高となっているんですけど、それがかなり削減されるということも実施をしていますので、それらを考えますと、物件費等々かなり減少するのかなというように思っているところでございます。

○議長（石橋英和君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）そういうふうをお願いしたいところですけどね。ただ、財源を生み出すための取り組みの中で、1日目の一般質問でもあったと思うんですが、人口減のことですね。これ、改めてこの数字を申し上げたいと思いますけども、本市の23年度の人口減少率の全国値の中の位置ですけども、これは787市ある中で減少率297位。ちょっとわかりにくいので100分率で言わせていただきますと、100位中の38位のワースト率なんです。つまり、これも通信簿でいいますと2ぐらいで



すかね。

で、私がお聞きしておる中では、人口減少を抑制するのに、だいたい170人というふうに、ここでは、ちょっと答弁とは違いますけれどもはじかれているというふうに事前にお聞きしております。それで言いますと、減少率は全国のベスト25位、100分率で言いますとね。ベスト25位まで上げないと、そういう減少率ではおさまらない。ワースト38位の市がベスト25位の市に、この数年でなれるんでしょうか。私はなれるとは思えないですね。そういう非現実的な数字を持っておられるというのは、ちょっと困ったことだなというふうに思います。

それと、確かに物件費は削っていくんですけども、どこをどう削るんかということ、これからでもいいですから具体的にもっと詰めていただかないとね。これだけの数字を、一つ一つ、この事業、この部分、この課のこれいくらか出しますよというものを積み重ねで28億円になるんでしょう。それが見えないんですね。今のところ。それはしっかりしていただきたいなと。これは要望しておきます。

そして、続けていきたいと思えます。ちょっと時間が押しているんですけども、そういう大変厳しい財政状況の中で、この市街地を泣き泣きながらでもやっていくということから、しっかりと、いくら事業のコストのかからないようにといっても、それは難しいと思えますね。現実の、皆さんもう認識されていると思えますけども、で、住民に、あるいは市民に対しても、しっかりこの事業の意義を十分に説明されて、行政としての責任をお示し願いたいなということで希望させていただきたいと思えます。橋本の玄関口であると。玄関をきれいにせなあかんと。しかし、玄関の改修に30年かかっておったんでは、何をしておることかわかりませんので

ね。そのあたりも十分に説明をお願いしたいと思えます。

それでは、この第二地区の件ですけど、先ほどの部長の答弁では私は納得できないんです。これも現実に、当然並行してはできないし、この今の財政状況を見る中で、もうかかれることないんですね。数十年にわたって。それは、やはり地域住民の方に、きちっと市としての説明責任を果たされるべきであろうというふうに思いますが、再度、どうお考えか明確にご答弁をお願いします。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）第二地区につきましては、現在第一地区で実施しております区画整理事業という形で執行するとなりますと、同時に第一地区と並行してやるというのは現実的に無理でございます。そういったところで、区画整理事業としてそのまま実施するのであれば、少なくとも第一地区が終わって以降ということになります。この点、住民には説明をしていくべきであろうと考えますし、また一方で、先日来の新聞等にも載っておりましたが、やはり防災・災害という視点で、密集市街地の解消という責務も背負っております。こういったところについて、区画整理事業以外の手法で何か第二地区についての対策はあるかどうか、これはもう少し時間を要して、いろいろ検討する必要があると思えます。

そういったあたりを、今すぐになかなか具体的な説明というのは無理なんですけども、第一地区の休止区域の説明と並行しながら、第二地区についても、どういった手法であれば現実的に可能であるかというような検証もしながら、第二地区の皆さまにも何らかの説明をすべきであろうというふうに考えております。

○議長（石橋英和君）8番 中西君。

○8番（中西峰雄君）私が言うまでもないことなんですけども、区画整理事業で賢明なまちは、やめているまちがかなり出てきてますね。計画の認可区域であっても、区域を限って、その区画整理事業を廃止されているところもあります。

今、部長がおっしゃられたのは、その辺も踏まえた上で、ほかの取り組みを模索していきたいということかなと思うんですけども、ただ、現実の話としては、住んでいる人としては、もう自分とこの家どないなるんやろうなということなんです。皆さん高齢化しています。若い人は本当に少ないですよ。そんな中で、めどがないわけですよ。正直言って。いろいろ模索されるにしてもね。当面の間。それはそれで、正直に市として住民に説明をしていただくことを、私も希望しておきます。時間がないんでね。よろしくお願ひします。

これで1番目の質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、文化遺産と観光資源価値に関する質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（松田良夫君）登壇〕

○教育長（松田良夫君）中西議員のおただしについてお答えします。

橋本市には、古く縄文時代の昔から人々の営みが残され、その後も、古代から現代と今日の橋本市に至る歴史的な文化遺産が残されています。それは、土器や石器などの埋蔵文化財であったり、古文書や記録などの文献資料、道標・石灯籠・石塔・石仏などの石造物、寺院・神社・住居などの建造物、古墳・城跡などの史跡、衣食住・生業・風俗習慣などの民俗資料などであったりします。

こうした文化遺産は、長い年月を経て今日に伝わるもの、長い年月の間に変化していく

もの、あるいは消えていくものがあります。これらはいずれも歴史の中で意味があって残り、変化し、あるいは消えていくものです。これらの文化遺産、すなわち文化財のうち今日に伝わるもので、本市にとって特に重要なものを橋本市指定文化財として指定しています。また、橋本市管内には、和歌山県、そして国の指定文化財も存在し、これらは本市が責任を持って守り伝えていかなければならない文化遺産と考えます。

○議長（石橋英和君）経済部長。

〔経済部長（大倉一郎君）登壇〕

○経済部長（大倉一郎君）観光資源価値のある文化遺産とはどのようなものか、のおただしについてお答えします。

今年、富士山が世界文化遺産として登録され、登山客の急激な増加や関連商品の販売など、富士山を観光資源として経済効果をもたらすブームとも言える動きが見られます。

本市においても、近い将来、黒河道等が世界文化遺産である紀伊山地の霊場と参詣道として追加登録され、世界遺産のあるまちとして位置付けられることの価値は大きいと考えられます。たとえ黒河道を目的として来市される方が少ないとしても、世界遺産の出発口として橋本市を訪れる動機につながり、そこから旅行者のニーズに相応な地域の詳細情報を伝えることにより、リピーター集客等につながりたいと考えています。

大手観光エージェントの調査によると、最近の旅行者の傾向は、インターネットの普及とともに、かつての団体パック旅行から個人手配型旅行への移行が圧倒的に多くなり、その比率が約90%となっています。個人が行きたいところ、泊まりたいところを自由に組み合わせる旅行です。これに伴い、観光地を見るだけでなく、食事や体験など地域の人から聞いた情報で、その地域らしさを味わってみ

たいという旅行者が増えています。

また、ソーシャルネットワーク等を活用して、旅行者自らが感じたことを情報発信する流行から、思いがけない地域資源が話題となって、観光客を呼び込む役割を果たしています。

このように、その地域でない限り経験できない味覚、視聴覚、触覚要求という旅行の質の変化に対して、訴求力を持った素材を地域が常に提供できるよう磨き上げを行い、来訪者の満足度を上げる取り組みを継続することが大切であると考えています。

本市としても、観光客のニーズが多様化する中、文化財・文化遺産に限らず、あらゆるものが観光資源価値を持ち得る可能性があります。何度来ても新しい発見があるように、素材の本質の磨き上げとともに、おもてなしなどの付加価値が重要であると認識し、来訪者が橋本市に来て良かったと感じていただけるような、地域とつながりを持てる観光資源を創造してまいります。

○議長（石橋英和君） 8番 中西君、再質問ありますか。

8番 中西君。

○8番（中西峰雄君） ご答弁ありがとうございます。

おっしゃってるところは、作文としては大変よくできてます。ただ、私は、ちょっとこれは質問になるんかわかりませんが、一つは、観光についても、これは他市との比較、他地域との比較の問題なんです。つまり、消費者といいますか旅行者は、いろんな選択肢、自由な選択肢を持っている。その自由な選択肢の中でチョイス、選ばなければならないということなんですね。

ご答弁の中にありました、訴求力のあるものをいかに創造していくかということになると思います。訴求力があるかないかという判

断のときに、ほかのまちの観光資源がどうかということも十分に調査・研究をした上で、私どもの市の観光経済政策を立脚していただきたいということを要望させていただいて、質問してもあれですから、要望させていただいて、とにかく世の中は比較です。比較の中でチョイスされなければなりません。その中で、うちの観光資源がどれだけの訴求力を持っているのかということは、他のまちの観光資源をよく調査・研究・考究して、考え抜いて構築していただきたいことを希望して、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君） 8番 中西君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時37分 休憩）